

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 石井 美紀代	職名 准教授	学位 修士 (看護学) 大分医科大学 2001 年
-----------	--------	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
地域看護学	在宅ケア、訪問看護

研 究 課 題
医療・介護の一体化改革によって、医療機関の受け皿を在宅医療・在宅看護に期待されている。また、在宅の定義が単に自宅を指すものではなく、「生活の場」に拡大されている。そこで、地域包括ケアにおいて看護職に求められるニーズおよび協働・連携について研究する。

担 当 授 業 科 目
社会保障概説 (看護学科 1 年 後期) 家族と健康 (看護学科 2 年 前期) 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ (看護学科 2 年 後期) 看護研究 (看護学科 3 年 前期) 在宅看護学 (看護学科 3 年 前期) 在宅看護学演習 (看護学科 3 年 前期) 在宅看護学実習 (看護学科 3 年後期・4 年前期) 看護総合演習 (看護学科 4 年 通年) 看護総合実習 (看護学科 4 年 通年) 高齢者支援学Ⅰ (保健福祉学部共通科目 2 年集中) 高齢者支援学Ⅱ (保健福祉学部共通科目 4 年集中) ※履修者 0 名で開講せず 看護学 (栄養学科 3 年 後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 社会保障概説 】</p> <p>講義は、社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生の 4 本柱を、社会福祉士の外部講師と分担して実施した。中学や高校の「公民」の授業で日本国憲法や社会保障制度を学んできて、苦手意識を持っている学生は多い。対面授業であれば学生の反応を見ながら、解説の言葉を変えたり繰り返し説明したりできた。遠隔授業となった今回は、学生の反応がつかめないまま一方的に解説をすることとなった。そのため、過去に国家試験で出題された問題を、授業の最後に解いてもらい、解説することで理解を深めるようにした。また、授業時間を 5 分残して終え、毎回、質問の時間を確保した。</p> <p>法律や制度は暗記する部分が多いが、遠隔での期末テストでは持ち込みを許可することになり、テスト結果に基づく科目評価では、ほとんどが「優」となった。</p>
<p>授業科目名【 家族と健康 】</p> <p>講義は家族看護学の教科書を使い、社会学を専門とする外部講師にも 2 回講義してもらって、家族を看護学、心理学、社会学でどう捉えているかを解説した。理論の解説後は、使える知識になるよう看護の対象となる事例を用いて各自で展開し提出を求め、次の週に解説した。</p> <p>学生の中には、自分の家族に対して複雑な感情をもっている者もいることが想定される。そのため、あえて自分の家族を説明したり分析したりしなかった。昨年は講義の展開に反発する学生がいて学生支援室に相談することがあったが、今年はリモートだったため学生の反応が読めず、講義後も負の反応を見せる学生はいなかった。</p>

授業科目名【 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ 】

この講義は、看護師課程は選択、保健師課程は必修である。保健師課程を目指す学生と、単位取得のみを目指す学生が混在しており、取り組み意欲に差があった。しかし、目標を下げることなく、専門雑誌の記事を資料にして実務とその背景や理論を押さえていった。

例年はグループでディスカッションして、先進的な取り組みについて成功する因子を思考させて理解を深める。今回はリモートでディスカッションが難しく、思考することなく How to の理解止まりであった。リモートでの授業となる場合、その方法について課題が残った。

授業科目名【 在宅看護学・在宅看護学演習 】

今回は、在宅看護学と在宅看護学演習が時間割上続きであった。そのため、演習を中心に、講義と演習を同じテーマで流れを作り、理解を図った。演習の在宅看護過程では、例年、学生は他の科目のメ切を優先させることから、シラバスどおりのグループワークや解説が出来ない。今年はリモートであったためグループワークをなくし、共通事例の看護過程を郵送し、それを見本に個人で看護過程の展開をさせた。また、Classroomで頻繁に提出させた。教員4人で担当しているため、コメントに差が出ないように頻繁に打合せ、コメントの内容も出来るだけ統一した。

しかし、学生の授業評価のコメントは教員の個人攻撃や中傷に近いものもあって、リモートで教員が伝えるための言葉選びを反省させられた。学生はリモート授業がストレスフルで、その感情を授業評価に投影させたものかもしれないが、授業評価に疑問をもった。

授業科目名【 在宅看護学実習 】

在宅看護実習は、現場から得ることが必須である。リモートで実習目的・実習目標を達成させるため、臨地実習で体験することをリモートでも体験できるよう、何を教材にし、臨場感と緊張感を得るためにどんな設定を作るか、とにかく悩んだ。訪問看護ステーションにお願いし、実際に訪問している事例で紙面、画像、動画の情報をいただき、教員の指導に加えて、事例を担当する看護師に各学生が Meet や電話で質問したり助言をいただいたりする機会を、複数回設定し、看護過程を展開させた。学生数だけ事例があるため、教員があらかじめ臨地の看護師と打合せし、事例の情報を共有し、学生の指導をすることは、大変であった。また、療養者の訪問が出来ないため、DVD や YouTube の事例を使い、在宅介護における社会問題についてテーマを決めて、毎日、ディスカッションしていった。

これらの実習方法を確立するまで、助手が「どうですか」「何をすればいいですか」と動揺し、何も考えられない状況であった。助手の動揺を受け止め、混乱を整理し、方向性を示し、行動の指示をすることが求められた。学生に実習の成果を担保すること、助手の段取り力、指導力を支える事を、常に考える1年であった。

授業科目名【 看護総合演習・看護総合実習 】

7人の学生は、例年通り、多領域の選抜を漏れて在宅領域にきた学生であった。それでも、在宅看護はあらゆる年齢、あらゆる疾患を対象としているため、学生にはもともと興味があった分野の在宅バージョンで、テーマを決めてもらった。前期は、自分が設定したテーマについて、ネットで入手可能な論文を読んで調べ、毎週1回、Meet で発表しあった。最上級生だけ図書館の使用が予約制で可能になってからは、図書館利用を呼び掛けた。

臨地実習に行けないため、看護総合実習に変わることで、事例研究の論文を複数読んで、その相違についてまとめさせた。また、自分のテーマに見合ったリモート講演会を探して受講し、報告書の提出を求めた。

看護総合演習・看護総合実習の成果の論文は、論文集にしてゼミ生に配布した。リモートでの論文指導は、学生の進行速度とやる気が影響する。期限を決めてもなかなか提出しない学生がおり、しかも、連絡を絶たれるとなすすべがなかった。

授業科目名【 高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ 】

この講義は総合人間科学に位置し保健福祉学部の3学科共同で行われるため、福祉学科の荒木先生を中心に、到達目標・講義展開・評価基準を統一するための打合せに力を注いだ。初日に講義、2日目に3学科合同グループでディスカッションするが、カリキュラムが違うために学生の特性を捉え、助言の言葉選びが難しかった。

看護学科の学生は、各グループの中でリーダーシップを発揮しており、これまでの授業でディスカッションになれていることが明らかにわかった。

授業科目名【 看護学(栄養学科) 】

この講義は看護学科教員がオムニバスで行い、私は在宅療養における看護師と栄養士の機能について2コマ担当した。在宅療養者の支援を訪問看護師の活動を説明するとともに、「行動変容に結び付く栄養指導とは？」を伏線に、問題提起をした。行動変容の理論と訪問看護師の教育的機能についての説明をして、糖尿病の事例の栄養指導のレポートを課した。リモートであったため授業中の学生の反応はわからないが、授業後に提出されたレポートでは、生活者の価値観(QOL)を想像して指導することが難しいようであった。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本健康福祉政策学会		1997年6月～(現在に至る)
日本地域看護学会		1997年10月～(現在に至る)
日本看護学教育学会		1998年4月～(現在に至る)
日本公衆衛生学会		1998年4月～(現在に至る)
日本老年社会科学会		1999年4月～(現在に至る)
日本学校保健学会		1999年4月～(現在に至る)
日本老年看護学会		1999年8月～(現在に至る)
日本看護研究学会		2001年11月～(現在に至る)
日本在宅ケア学会		2004年8月～(現在に至る)

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) ある末期がん患者の経験から考える意思決定支援のあり方	共著	2021.3	西南女学院大学紀要 Vol.25	①がん患者の語りをまとめた事例報告である。対象は60歳代男性で、胃がんの末期患者であった。ギアチェンジ期の前後において、療養中の出来事と、経験の意味を明らかにすることを目的とした。対象の語りから8つの出来事と20の経験が抽出された。 ②共著者：石井美紀代、水原美地、中山昌美、吉原悦子、鹿毛美香 ③pp23-32
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市介護認定審査会	委員	2007年4月～2021年3月
戸畑区地域ケア研究会	運営委員	2020年4月～2021年3月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

[大学委員会] 就職委員 [学科役割] カリキュラム検討（オブザーバー）
